

# コスモス 1月号

第69巻 第1号

◆宮柊二カレンダー(22) 一月の歌

地下鉄の階段のぼると消えゆきし万才は一人  
こころにのこる  
歌集『多く夜の歌』

前書に「歳首。万才は才藏を伴はざりき。」とある。正月に家々を訪れ新春を寿ぐ芸を見せていた万才の姿は、いつ頃まで見られたのであろうか。抽出歌は昭和二十九年の作であるが、万才を見た驚きではなく一人であったことを訝しんでいるのであるから、この頃までは東京では万才が見られたようだ。万才は太夫と才藏の二人で演じる芸である。才藏を伴わぬ太夫の背は淋しく、古めかしい衣装は地下鉄にはそぐわない。やがて万才の姿は巷から消えてゆくであろう。太夫の背を追う柊二の眼差しが心に残る。  
(小山富紀子)